

会 議 錄

会議の名称		令和 6 年度第 2 回守谷市地域公共交通活性化協議会			
開催日時		令和 7 年 1 月 29 日 (水) 開会：午後 2 時　閉会：午後 4 時			
開催場所		市役所 議会棟 2 階 全員協議会室			
事務局(担当課)		都市整備部 都市計画課			
出席者	委 員	佐野委員、有原委員、佐藤委員、小路委員、樋澤委員、爲我井委員、中島委員、宮野入委員、泉委員、長谷川代理、鶴町委員、岡野代理、片山代理、芳賀委員、石塚委員、浅野委員 以上 16 名			
	市職員	笠川課長、仲島主任、平井主任、中野主事 以上 4 名			
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 2 名
公開不可の場合はその理由					
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 委嘱状交付 5 議事 (1) 協議事項 議案第 1 号 令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 議案第 2 号 デマンド乗合交通の予約システム更新について (非公開) 議案第 3 号 令和 7 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 6 その他 7 閉会			
確定年月日			会議録署名		
令和 7 年 3 月 27 日			中島 伸一		

審 議 経 過

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 委嘱状交付
- 5 議事

(1) 協議事項

●議案第1号 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
【事務局から説明】

○意見・質問等

小路委員：計画の目標を達成したとのことで、それは良いことだと考えるが、一方でお断り件数が多いので、それを目標にしていくことも必要と考える。その点はいかがか。また、ノーマイカーウィークについて、どの程度公共交通の利用があったのかその効果について把握していれば教えていただきたい。他にも、利用実績のページで障がい者の欄があるが、これは大人の障がい者の利用人数ということか。

事務局：お断り件数が増加していることは認識しており、予約システムを見直すことで乗合率を向上させられないか検討している。また、利用希望時間帯が重なるためにお断りが増加している面もあるが、予約センターで利用者に空きのある時間帯を案内している。目標については、設定の仕方も含めて検討する。ノーマイカーウィークの実績については、10の事業所に協力いただき 18名の方にご協力いただいた。利用実績の障がい者の欄の人数は、ご認識の通り大人の障がい者人数である。

小路委員：実績に記載されている数字は、付き添いの人数も含んでいるのか。

事務局：その通りである。

小路委員：登録して利用している方と付き添いの方をそれぞれカウントすることはできるか。

事務局：予約システム上付き添いの人数を抽出することは難しい。

小路委員：この表記では集計の範囲がわかりづらいので今後改善してほしい。

有原委員：高齢者サロンでの説明会について、内容や場所などを伺いたい。

事務局：今年度は薬師台の2つのサロンにて講座を行った。内容としてはモコバスとデマンド乗合交通の乗り方や料金、ルートなどを説明した。

【採決の結果、全員賛成により承認】

●議案第2号 デマンド乗合交通の予約システム更新について

※議案第2号については、システム入れ替えにあたりシミュレーションを依頼した企業から、システムの機密保持のため議事録への記載を控えていただきたい旨の申し出があり、協議会当日もその旨を委員にご説明済みのため、記載しない。

【議論の結果、次回に持ち越し】

●議案第3号 令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 【事務局から説明】

○意見・質問等

爲我井委員：これからの中高齢化時代を踏まえると、全体的な公共交通網について検討をしていただきたい。境町でも自動運転を行っているが、バスのような中型車両で一度に運送するのではなく、小型車で頻度を高めて運行するほか、デマンドの年齢制限を撤廃し多くの方が利用できるようにするなど検討していただきたい。高野地区ではモコバスがないので恩恵があまりない。このタイミングで考えなければ将来的に交通空白地帯が拡大し手に負えなくなると考えるので、この予算を使ってしっかりと検討していただきたい。

事務局：バスルートの話となると、ドライバー不足の問題が出てくる。お金を出せば運行してもらえるという状態でもなくなっている。新たな交通サービスについても検討する必要があるが、この予算の中で事業者や内容なども検討し実証も視野に入れていきたい。

小路委員：予算で、ルート見直しと公共交通実証事業で多くの費用を見込んでいるが、シミュレーションだけやって終わりではなく、様々な専門家などからも話を聞き、住民にとってより良い公共交通を検討いただきたい。モコバスとデマンドのすみ分けや新たなモビリティの導入など、様々な方を巻き込んでよいものを作っていただきたい。

事務局：様々な方からの意見を聞きながら出ないとそのような検討は難しいと考える。市だけではノウハウなども足りないため専門業者に委託することも考えている。その際は仕様なども含めて協議会で諮詢していく。

小路委員：仕様や途中経過なども含めて協議会の場で議論し決めていくようにお願いしたい。

【採決の結果、全員賛成により承認】

5 その他

事務局：今年度、大野小学校に公共交通出前講座を行った際に、生徒からグッズが欲しいとの意見を多くいただいた。事務局としても、今後の市内のイベントなどで活用できるため、来年度政策を検討したい。

内容や個数などについては、新年度以降検討し、皆様のご意見を伺いたい。

事務局：来年度の5月11日と12日の土日に開催されるMOCOフェスタの実行委員会より、モコバスの無料デーを開催してほしいとの依頼があった。こちらについて開催してよろしいか。

爲我井委員：高野地区はモコバスが通っておらず、関東鉄道の路線バスしか走っていない。以前、この施策はモコバスの利用促進のために行っているとの説明を受けたが、毎回同じ内容では走っていないところとの差が大きくなると考えている。高野地区の住民に関東鉄道バスのチケットを配るなどして対応できないか。

事務局：今年度、市議会から公共交通について検討するようにとの話もいただいており、そのための予算を多く要望しているので、それを使用し検討していく。一方、モコバスやデマンド乗合交通は協議会の事業として行っているものなので、市としても方向性や案をお示ししていくが、それをもとに皆様でご協議いただき決定していくものと考えている。皆様の中で合意形成が図れるかが肝となってくると考える。

浅野委員：今後の公共交通計画の見直しや施策を検討していくにあたっては、分科会のような組織を作成し、そちらで議論を行ってから協議会本体で協議をしていただくことも手であると考える。協議会本体だけでは議論に時間もかかりまとめるのが大変と考える。

事務局：地区ごとに問題などは異なると考えるが、その要望をすべて拾うことは公共交通として難しい問題ということは認識いただいていると感じる。事業においては、民間事業を圧迫しないようなスタイルを検討していく必要があり、例えばデマンド乗合交通で言えば増台してタクシー会社の経営を圧迫してしまうことはできない。先ほど出たが、デマンド乗合交通は年齢制限を設けているので福祉的な側面も強くなっているので、公共交通と福祉のすみ分けなども含めて、守谷のスタイルを構築していくかなければならない時期に来ていると考えている。そのため、既存事業で不便な点などについては見直すなども含めて来年度検討するための予算を上げさせていただいた。今後協議会内で検討していくにあたっては、皆様でご議論いただき分科会を設置するとなれば、設置していきたい。

爲我井委員：分科会の設置は良い案だと考える。分科会で積極的な議論が行われると良いと考える。

中島会長：個人的な意見だが、現在の公共交通事業は福祉的な面が強くなっていると考えている。つまり、免許返納者などの弱者に公共交通を利用して便利に移動していただくかということがこの場で討議されている部分だと感じているし、皆様もそうお感じだと考える。予算をこれだけ取っているので、この中だけですべて網羅できるとは思わないが、どのような施策を行っていくか検討して決めるのがこの場

であると考えるので、皆様と協力し今後の在り方を議論していきたい。

小路委員：今の会長のお話の通り、福祉的な側面が強いと感じるので、市民皆様に魅力のある公共交通網を形成していくことが大切と感じる。無料デーの話だが、皆さんは関東鉄道バスや常総線も含めて移動していると考えるので、本来的にはそれも一体的に考えて行けると良い。すぐには難しいとは思うが、短期間の実証のような形式で試してみるのもよいと思う。無料でなくとも安い料金で鉄道やバスなど市内の公共交通が1日乗り放題になるパスを販売するなどの方法もあると考える。他市町村の例なども確認していただきたい。

中島会長：今回無料デーの実施については、様々なご意見が出たが、5月上旬に行うものがあるので、その中で関東鉄道のバスも含めた施策を調整し実行するのは、予算のことも踏まえると時間が少ないと考えているが、事務局はいかがか。

事務局：今関東鉄道の路線バスも含めた施策のご提案があったが、関東鉄道様としては、自費負担ではなく協議会などから運賃分を負担すると仮定すると、このような施策が可能なのかお伺いしたい。

岡野代理：このような施策を行うとすると、国土交通省に認可が必要である。さらに、1日の路線バスの運賃収入を計算し、補助金としてお支払いいただくことになると思われるが、1日当たりの乗車したであろう人数を正確に算出するのは簡単にはいかない。会社に戻ってよく検討しなければご回答するのは難しい。

事務局：乗った方の人数を正確にカウントして、それに対して協議会で負担できるかということであるが、カウントも難易度が高いようである。5月に実施予定であるので、時間も限られている。次回の検討材料としたいがいかがか。

中島会長：やはり5月という時期を考慮すると難しい部分もあると感じる。一案としては、地区に乗降範囲を指定した無料チケットを配布するやり方もあると考える。

泉委員：関東鉄道では貸し切りバスの運行は可能か。

岡野代理：乗合と貸切両方の免許を持っているので対応可能である。

泉委員：料金体系としては時間指定の1日単位があるいは期間の通し料金か。

岡野代理：国が定めた貸し切り料金の算定基準があり、それに則っている。1日の拘束時間と走行距離によって算出する。

泉委員：貸切バスが可能であればそれが最も早いのでは。

中島会長：ルートを決定すれば貸切は可能だと考える。モコバスが通っていない地域をルートに設定し、関東鉄道に見積依頼を出したのちに予算的に可能かどうかを検討することになるが、調整の時間も考慮する必要がある。

事務局：様々なご意見を頂戴した。いずれも協議会としてやるかどうかの判

断となるが、それにあたり関東鉄道への見積依頼が必要であり、金額を見て市に対して負担の要望を出すことになると考える。負担するべき費用として適切な金額か検証するプロセスも踏まえると5月というのは難しいと感じる。この事業の目的はモコバスの利用を促進し、新規のお客様にも利用していただくことが1つあるので、事業が目的に沿っているかも考慮する必要がある。考慮した結果協議会として貸切バス運行を実施するということであれば関東鉄道への見積依頼などを行わせていただく。

小路委員：そもそもその目的はどのようなものだったかを意識しながらやることを決めていくことが大切である。今回であれば、利用促進もそうであるが、皆さんが車で来ると混雑してしまうのでそれを解消できるという効果もあるので、様々な恩恵があると考える。この事業に限らず目的と効果を検証して事業を進めていただきたい。

中島会長：無料デーについては、話に出たように利用促進や混雑緩和などのメリットがある一方で、不公平感もある。しかし、5月までに見積依頼を行い、費用対効果を検証し国の承認を得るというプロセスは、現実的に討議が難しいと考えている。利用促進などの目的を考えると平等さは大切なことなので、協議をしていきたい。事務局も今回の話はテーブルに乗せた状態で今後検討してもらいたい。今回の無料デーは実施するということでよろしいか。

【反対意見なし。承認】

事務局：デマンド乗合交通を委託している関鉄タクシー株式会社より、4月1日から京成電鉄の中間持ち株会社化により、京成タクシー茨城に名称変更するとの通知があった。

事務局：次回の協議会は6月中旬ごろを予定している。そこでは、本日いただいたご意見等も含めてご協議等していければと考えている。

6 閉会